



平成 26 年度 (第 68 回)

芭蕉祭

俳聖松尾芭蕉の業績を称え遺徳を偲ぶ「平成26年度(第68回)芭蕉祭」が、10月12日、上野公園を中心に行われました。

芭蕉翁銅像、文学碑への献花、献菓のあと、上野公園内の俳聖殿前で厳かに式典が行われました。式典は、「芭蕉祭子ども合唱団」による「芭蕉さん」の斉唱で始まり、献詠俳句特選句の披露、懸額除幕、各受賞者への表彰などが行われました。

今年の献詠俳句は、全国各地・世界各国から、一般の部に8,520句、テーマの部に2,020句、児童・生徒の部に27,041句、英語俳句の部に31カ国から1,261句、連句の部に143巻の応募がありました。各部門の特選句と、一般の部で入選した市内の皆さんの句を紹介します。

【問い合わせ】

文化交流課 ☎ 22・9621 FAX 22・9628

一般の部 特選

▼有馬朗人 選

雁塔は経書を蔵し鳥渡る
松籟の空に高鳴る仏生会

豊中市 小畑晴子
津山市 岸しのぶ

▼稲畑汀子 選

一瞬と思ふ昼寝の長さかな
被災地を癒し合ひつゝ鳥帰る

伊賀市 子日康子
仙台市 小島左京

▼茨木和生 選

登りたき峰の一つに雲の峰
炎天へ一瀑吸はれ行く如し

津市 齋藤千代子
金沢市 今村征一

▼宇多喜代子 選

一湾も一川も梅雨夕焼なか
熊と鮭千古のままに秋の川

八戸市 中村洋子
北広島市 水口茂

▼岡崎光魚 選

驟雨去る牛の睫のしづくして
小突かれて毛虫ドーナツ形に擬死

伊賀市 永井みよ
伊賀市 土井陽代

▼小澤實 選

賑やかに課外授業の稲を刈る
ハンカチに白糸刺繍盛り上がる

室蘭市 青野時子
東京都杉並区 岡本春水

▼鍵和田柚子 選

戦記繰るひたすら紅き冬林檎
草笛にくさぶえ応へ伊賀の里

津市 荻山千鶴代
東京都港区 南部信子

▼金子兜太 選

魂鎮む茶の花咲けり知覧なる
アマゾンに挑む米寿や移民の日

春日部市 小柳満
ブラジル 竹下澄子

▼塩田藪柑子 選

父祖の田を守る難しさ土用入り
旅客機の墜落疑惑夏の闇

伊賀市 森本禾穂
豊中市 杉山桜寿

▼棚山波朗 選

八千草や切れては続く翁みち
水やれば箱庭に川生まれけり

伊賀市 福山良子
豊中市 小畑晴子

▼西村和子 選

めつむりて薫風を聞く芭蕉像
滝行者水になるまで合掌す

浜松市 上野文子
小平市 鈴木昇一

▼長谷川權 選

今年竹美しき頃男山
日本の空に瓦や桜咲く

大和高田市 卜部千代子
愛知県 大平和男

▼星野椿 選

菊の名をおもひのほかといふ膾
溪流の音も馳走の鮎の宿

西尾市 蓮沼たけし
伊賀市 森中幸枝

▼正木ゆう子 選

不器用に包みて砂糖黍長短
夫の忌や南瓜の花とハーモニカ

福知山市 山内利男
長崎市 並川友子

▼三村純也 選

水透けて虹鱗の斑のゆらめきぬ
乾杯の声ほどビール飲めざりし

堺市 伊藤とし子
大和高田市 卜部千代子

▼宮田正和 選

信号の青に踏み出す木の芽晴
花火果てはつぼつ窓の灯りけり

川口市 滝本史代
伊賀市 桑原智代美



英語俳句の部 特選

on barbed wire a white dove sits alone - Hiroshima Day
(有刺鉄線に白鳩一羽ヒロシマ忌)
C Mohsen Farsani モーセン・ファルサニ イラン/フランス

lying together after their lonely whirling fallen leaves
(一葉ずつ舞ひて大地に積む落葉)
Francesco de Sabata フランチェスコ・デ・サバタ イタリア

連句の部 特選

▼大野鶴士 白根順子 西田青沙

※半歌仙『朝露』の巻 石川県 和田忠勝
密田妖子

共選(五十首順)

捌 芭蕉翁

密田妖子

谷本綾子

瀬戸瑞枝

中村清子

池田みち子

綾

綾

瑞

み

清

瑞

綾

清

妖

清

み

山頂の天守を包む花の雲
千の風船放つ青空

平成二十六年七月十六日 満尾 密田宅

テーマの部 特選

▼片山由美子 選

清明や祝詞に交る鳥の声

北になほ山河ありけり鳥雲に

名古屋 光田道子

高山市 小林昌子



児童・生徒の部 特選

〔保育園・幼稚園・小学校一～三年〕

▼北村保 北村みち 佐々木経子 西村八洲子

松本ちい 共選（五十音順）

カミナリさんふとんのなかまでこないでね

あかちゃんとおっぱいあわせてあせかいた

バツさんくるまのなかでかくれんぼ

ひまわりはぼくのしんちようふたつぶん

おはかにねほおずきのひがともったよ

べらんだのおくらがおおきなつのをだす

はすの花はじめてひらく夜明けです

おまつりのやたいのあかりあとひやく円

あめんぼうにんじやみたいにするべつて

新かん線らい雨に向かい一直線

先生の夏の絵のはがき山の風

波が引くいそいでひろつたさくら貝

〔小学校四～六年〕

▼下村哲朗 土井陽代 濱地和恵 藤井充子

山村勝子 共選（五十音順）

水門のマンホールの絵のやけている

通学の大川夜はほたる飛ぶ

友達ときそってあみでどじょうとり

とりにがすアマゴのせびれきらきらと

台風のひなんようぐに笛もいれ

トンボ飛ぶペダルこぎこぎ図書館へ

負け試合汗と涙をふくタオル

弟とつないでる手に螢来る

キャンプでの火おこしとても難かしい

曙保育園 稲垣美優

曙保育園 岡野想生

曙保育園 山遥太

上野西小学校一年 おくけんさく

西柘植小学校一年 かめいひなた

依那古小学校一年 たかだハウル

神戸小学校二年 小島百翔

上野西小学校二年 いしせひまり

柘植小学校二年 川ばたない生

上野西小学校三年 山本まさ大

上野西小学校三年 村田海と

上野西小学校三年 はこ林はくえい

花垣小学校四年 田中朱音

柘植小学校四年 澤井綾

新居小学校四年 長屋椋大

上野西小学校五年 植村朋晃

府中小学校五年 奥永航

上野西小学校五年 家喜規之

上野西小学校六年 西出智紀

上野西小学校六年 北寺瑚実

上野西小学校六年 吉川緋彩



〔中学校・高等学校〕

▼喜多富美 永井みよ 東橋東子

福山良子 横田綜市 共選（五十音順）

夕立の後の水車の板重く

秋鮭の入荷知らせる鐘の音

宿題の汗のえんぴつ持ちなおす

逃げ水の向こうに見える道しるべ

入道雲砂丘の足跡すぐ消える

地藏盆母に代わって店の番

トマト切る雲は毎日あたらしく

坂道を下って見えた蜃気楼

山の肩かすめて消えし流れ星

目覚しをセツトし春の灯を消しぬ

上野南中学校一年 大西花音

崇広中学校一年 小幡朝美

緑ヶ丘中学校一年 内田直美

大山田中学校二年 澤野晴香

上野南中学校二年 福壽武俊

崇広中学校二年 小川空

城東中学校三年 青山翔

阿山中学校三年 中林杏

長崎県立大村城南高等学校二年 原口知也

長崎県立大村城南高等学校二年 松川みさき

一般の部 入選

▼有馬朗人 選

青梅雨や牧牛に置く塩の皿
西明寺 永井みよ
遠山に日の暮れ残る大暑かな
上野中町 下村哲朗

▼稲畑汀子 選

万緑や山湖大きく静もれる
上野丸之内 藤井充子
霧重し伊賀にも隠れ切支丹
上野茅町 森井まさゑ
結願の杖を涼しく納めけり
山畑 寺尾照
峡住みに海は景観土用浪
治田 西田扇女
山の日を得て光る露消ゆる露
山畑 北村みち

▼茨木和生 選

社殿なき花の窟の浜万年青
真泥 上田幸子

▼宇多喜代子 選

夏山を背負つて太き一古刹
上野茅町 森井まさゑ
右いせみち左は何処へ花の雲
朝屋 神尾早智子

▼岡崎光魚 選

早星赤し鉄鎖に田小屋閉づ
緑ヶ丘南町 谷本まさ子

切支丹墓域笹子の鳴くばかり
上友生 橋本良

築袖の鮎汲む大き撫綱入れて
緑ヶ丘南町 松本ちい
ひからびて蚯蚓梵字のやうや寺址
島ヶ原 島井節

遠花火軒下狐のとほりゆく
西山 川口登子

▼小澤實 選

味噌小屋の粗き羽目板日脚伸ぶ
西山 奥谷かち子

▼鍵和田柚子 選

宇治川のごうぐとゆく梅雨の橋
森寺 喜多柚子
高だかと鹿垣組めり学校園
柘植町 浜地和恵

▼金子兜太 選

八月や二度と汚さじ美し国
荒木 濱田愛子
村に住むこの楽しみや天の川
高山 山島勝年
嫁ぐ子の夫は漁師やあたたかし
山畑 山下久美
「元氣です」福島からの桃届く
中馬野 中森里江
恋人よひじきを炊いてくれないか
石川 今堀敬一

▼塩田薮柑子 選

年金の目減りに愁う梅雨の闇
玉滝 川波楊花
娘の遺品纏うことなき浴衣抱く
馬田 船見ふみへ
春惜しむ廃止されたるバス路線
阿山ハイツ 浅野睦月

▼棚山波朗 選

芭蕉忌を身近に修す伊賀住ひ
岩倉 西村八洲子
蕨取り置きし自転車遠くなり
湯舟 小倉葉子

▼西村和子 選

どこからか水の音して夏座敷
緑ヶ丘南町 山本カヨ子

沙羅散るや明日咲く蕾あまた持ち
三田 土井陽代

陽だまりに少女の居場所冬の町
長田 百上進一

草色のあかりがともる螢籠
猪田 中井康子

▼長谷川權 選

新涼をつれて峠を越えにけり
上野西大手 前出美千子

翁はいま未踏の雲の峰をゆく
緑ヶ丘本町 大野利江

さぶろうと名のつくめだか夕すずみ
桐ヶ丘 福島伸孝

大雨に朝顔の種流れけり
上野丸之内 池村悦子

束の間の夜風楽しむ明易し
上野西大手 前出公子

バス降りてふるさとに似し青田道
上野丸之内 藤井充子

旅一と日足湯に癒す花疲れ
上野丸之内 森井久子

万緑や歴史秘めたる伊賀盆地
上野桑町 福沢義男

町の灯の届かぬ川辺螢とぶ
妙楽地 川本和子

俳諧の広ぐる伊賀路時鳥
山畑 寺尾照

正木ゆう子 選
峡谷は奇名巨巖や時鳥
岩倉 澤井重正

三村純也 選
この町に誇る城あり風若葉
千歳 豊岡はつ子

墓鳴くや今に残れる忍者怪
緑ヶ丘南町 羽根千恵

川燈台点り螢の火をさそふ
三田 土井陽代

旧街道駆け抜けてゆく大夕立
上友田 桑原陽子

だんだんと太鼓の強く夏祓
馬場 箱林允子

伊賀は春旅を誘ふ芭蕉像
佐那具町 子日康子

▼宮田正和 選

鉄屑に鉄屑つまれ炎天下
猪田 福井伶子
瑠璃揚羽笹のゆらぎに見失ふ
柘植町 中西昭子

蓮の葉に風の大きくなりけり
山畑 米野てるみ

ひと谷の棚田潤ふ青嶺かな
馬場 小倉秋子

あかときの静けさ稲の花日和
山出 菊山時子

村十戸新盆ひとつ祀りけり
柘植町 平野博

ふるさとの兄息災や麦の秋
柘植町 橋本秀子

沙羅の花落ちて朝日の散らばりぬ
阿山ハイツ 白井弘美

壁掛けにして幼子の夏帽子
中柘植 岡村史子

片山田美子 選
一番の子としりとや小鳥来る
山畑 米野てるみ

海鳥の鋭き声や冬の暮
柏野 和田柏忠

木から木へ
鳥の遊べる
庭涼し
朝屋 福嶋スミ

子燕の
行き来見てをり
昼休
朝屋 上谷美喜

名も知らぬ
鳥来てひと日
囀れり
山畑 山下久美

時鳥
わが家の上を
はすかひに
猪田 中井康子

